

三回あなたに出会えたら

赤松 青海

人物

宮沢詩乃 (25) 広告プランナー

中野京介 (26) 編集者

狭山杏奈 (24) 詩乃の後輩

占い師

○ 占いの館・ブース内

宮沢詩乃（25）・狭山杏奈（24）、

占い師（女性・50代）に対面。

占い師「宮沢さんは、……器用だね。頭脳線が2本に分かれてる。一本は高めで、一本は深く下がってる。理論的な思考もでき、クリエイティブなお仕事もできそう」  
杏奈「え！ 広告プランナー天職ですって！」

詩乃、胡散臭そうな表情で手を見る。

占い師「あと、今お付き合ってる人は？」

詩乃「……まあ、一応」

占い師「うまくいっていないんじゃない？」

詩乃、目を丸くする。

占い師「結婚線が下がってる。名前的にも、人間関係が不安定な感じがするし」

詩乃N「一周回って手相占いを信じた瞬間だった。私、宮沢詩乃には、半年前から交際している彼氏がいる」

○（回想）電車内

憔悴した様子で吊革に縋る詩乃。

詩乃 N 「彼との出会いは、取引先との交渉が難航し、退勤が 9 時になった金曜の夜」

映画のクーポン期限を伝えるメール。

詩乃 「今日までじゃん……」

詩乃 N 「私は五百円引きの映画クーポンがもつたいなくて、映画館に立ち寄った」

3

○（回想）映画館・シアター内

主人公とヒロインが路上で偶然に出会い、駆け寄って抱きしめ合うシーン。

詩乃、退屈そうに飲み物を飲み切る。

H10 のチケットを持っている。

詩乃 N 「下調べせずに見た映画は退屈だった。もうタイトルも監督も思い出せない」

隣の席の啜り泣く声に振り向く。

詩乃 N 「でも彼、中野京介は感動していた」  
スーツ姿の中野京介（26）、号泣。

4

○（回想）映画館・シアター入口

詩乃、退出する中野の肩を叩く。

詩乃「今の映画について、話しませんか？」

中野「……語りましょう」

詩乃 N 「映画フリースクを自認していた私はあの映画のよさを知りたかった。疲れておかしかった私は、気づけば逆ナンしていた」

○（回想）ファミレス（夜）

空席が目立つクローズ近くの店内。

詩乃・中野の前にバナラアイス。

中野「だからジェシカは、ブラウンを愛しているのに2回も別れたんです！3度目の偶然の出会いは奇跡だったんですよ！」

詩乃「だからそのすれ違いがピンとこなくて。2回目の対面でセックスしときながら、朝には居なくなってるって、ジェシカ勝手すぎないですか？感情移入できない」

中野「婚約者がいたんだから当然です！むしろ一夜の夢を見せたと解釈すべきです！」  
詩乃「ええ？演出の都合な気がしますけど」

中野 「三回出会えばそれは運命なんです！」  
詩乃 「……何言ってるんですか？」

× × ×

詩乃と中野を除き、客が誰も居ない。  
バニラアイスが手つかずで溶ける。

中野 「え？！宮沢さん『フォレストガンプ』  
見てないの？！ミーハーだよそれは！」

詩乃 「私、コメデイ苦手なの。中野さんだつ  
て『マトリックス』見てないくせに」

中野 「……内容難しいじゃん」

詩乃 「それこそミーハーでしょ！あれ映像革  
命って呼ばれてるん——」

店員が申し訳なさそうに立っている。

店員 「あの……閉店のお時間ですので……」

中野・詩乃、店員にペコペコお辞儀。

中野 「……今回のジェシカと、『フォレスト  
ガンプ』のジェニーは似てるかも」

詩乃 「『マトリックス』も面白いところいつ  
ぱいあるんだから」

中野 「……どっかで一緒に見ない？」

詩乃 N 「こうして京介と私は、月に二回、映画を見るようになった」

○（回想）カラオケボックス

詩乃・中野、スクリーンに PC とつないで映画を見る。

詩乃 N 「数回会って分かったことは、京介と私は映画の見方が違うこと。京介は、私より感受性豊かに映画を見ていた」

詩乃、退屈そうに中野を脇見する。

中野、真剣な表情で映画を見ている。

○（回想）詩乃のマンション・玄関

『宮沢』のプレート。

詩乃、中野を連れ、玄関を開ける。

詩乃 N 「出会って二ヶ月、カラオケで金を払って映画を見るのが馬鹿らしくなった」

○（回想）同・リビング

中野・詩乃、PC で映画を見る。

詩乃、ちらりと中野を脇見する。

詩乃N「家に招くほど打ち解けた私たちは、自然とそういう関係になった」

中野と目が合い、そのままキス。

○（回想）雑貨店

中野、スーツ姿で詩乃と雑貨を見る。

詩乃N「京介は休日もスーツを着ていた。編集者は休みを削って働くものらしい」

詩乃、青いペアグラスを見つける。

京介「これかわいいね。買おっか」

詩乃N「あの頃の京介は優しかった。心が通じ合っている、そういう確信があった」

○（回想）同・玄関

中野、合鍵で玄関を開ける。

詩乃N「出会って三ヶ月後、土曜日に京介が泊まりに来るようになった」

○（回想）同・リビング

ベッドが部屋の片隅にある。

中野、廊下で靴下を脱ぎ散らかす。

中野「詩乃？いない？」

中野、上着を着たままベッドに寝る。

詩乃、帰宅して玄関を開けると、脱ぎ

散らかされた靴下を発見。

中野「詩乃おかえり〜」

詩乃「……ただいま」

詩乃N「出会って四ヶ月して分かったのは、

京介は私と価値観が違うこと。京介は我が

物顔で彼女の部屋を使うようになった」

詩乃、ベッドに寝る中野を睨む。

○（回想）電車内（夜）

詩乃、夜景の映る窓に反射した自分の

無表情を見つめる。

詩乃N「出会って半年して分かったのは、京

介は私と価値観が決定的に違うこと」

詩乃のスマホが着信する。

中野の声「しのしの〜？」

中野の声が間延びしている。

詩乃「……何？気持ち悪いんだけど」

中野の声「ごめん詩乃の家に友達連れてきていい？近くで飲んでて、彼女見たいって」

詩乃、表情が険しくなる。

詩乃「は？私は京介のお飾り？何なの？」

中野の声「いいじゃん減るもんじゃないし」

詩乃「減ってる！」

大声を出し、周囲から注目される。

詩乃「……少なくとも土日は京介の面倒で休日が削れてる。ずっとイライラしてる」

中野の声「は？面倒？俺だって仕事の合間を縫って会いに行ってるのに」

詩乃、糸が切れたようにへたり込む。

詩乃「……ごめん今無理。……会いたくない。……当分家に来ないで」

中野の声「え？ちよつと待っ——」

詩乃、電話を切る。

詩乃N「それ以来、京介とは会ってない」

涙が零れ、中野の着信に出ない。

○カフェ

杏奈、スマホを弄りながら、

杏奈「意外です。先輩でも泣くんですね」

詩乃「杏奈ちゃん？それどういう意味？」

杏奈「あ、タカシ新幹線に乗ってる」

杏奈のスマホ上で、青丸が高速移動。

杏奈「彼のスマホ、GPSついてるんです」

詩乃、露骨にいやな顔。

杏奈「あ、今引きましたね？でも私らみたい

に、何でもさらけ出せば凄く楽ですよ」

詩乃「……さらけ出す、か」

○劇場・シアター内

詩乃、上映前で呆然と画面を眺める。

詩乃N「休日に戻ってきた私は、余計なこと

を考える余裕も出来た」

詩乃「……私、ため込んでたのかな」

中野の声「あ」

詩乃、横を振り返ると隣に中野。

中野「その……、クーポン今日まで」

詩乃、使用済みのクーポンを見せる。

詩乃・中野、微笑し、少しの間沈黙。

中野「……色々ごめん。甘えてた。仕事に追われる毎日で、詩乃だけは甘えても許してくれるって思い込んでた」

詩乃「……私も、もつと言えばよかったね」

中野、無言で俯く。

詩乃「……まだ時間ある？賭け、しない？」

中野「賭け？」

詩乃「次の映画、別々に席とるの。もしまた一緒になったらさ、それは――」

中野「……運命だ」

○同・券売機前

詩乃・中野、同時にチケットを発券。

中野「俺、自信ある。詩乃はここを取る」

詩乃「……どうかな。百席はあるし――」

中野「大丈夫。詩乃の事、ずっと考えてた」

中野、H11のチケットを見せる。

詩乃、微笑し、中野の手を握る。

赤  
松

青  
海